

国内女性のAI活用状況

女性AI人材白書 2025

白書発行の背景

日本では少子高齢化や人口減少に伴い、労働力人口の縮小が進んでいます。
一方で、女性の労働参加率は着実に上昇しており、
総務省統計局の2025年6月の労働力調査によれば、女性の就業率は75.7%に達しました。
こうした状況は、女性が社会経済を支える重要な担い手となっていることを示しています※1。

しかし、日本では事務職やサービス職など、AIに代替されやすい職種に多くの女性が従事しており、
労働市場における構造的な需給ギャップが顕在化しています。

そこで私たちは、今回私たちは既存の調査だけでは見えにくい、「女性が抱える不安や期待」といったリアルな声に光を当て、
その実態を明らかにするためアンケート調査を実施しました。本調査を通じて浮かび上がった課題と可能性を整理し、
今後の議論や取り組みを進めるための示唆を本書にまとめています。

本白書が、女性の活躍を支える企業・組織や行政機関の施策や環境整備をさらに前進させる一助となることを願っています。

※1(出典)：「労働力調査結果」（総務省統計局）(https://jsite.mhlw.go.jp/kagoshima-roudoukyoku/content/contents/2025-0808-8_b3-01.pdf)

Agenda Overview

- 01 AIが女性労働市場に及ぼす影響
- 02 AIに関する女性の意識と利用実態
- 03 女性×AIで拓く新しいキャリア

Executive Summary

1

- ✓日本では人口減少が進む中、令和5年雇用者総数に占める女性の割合は46.0%。
女性の潜在労働力171万人が参入することでGDPを約10兆円押し上げる効果が見込まれるなど、労働市場における女性の役割は拡大。
- ✓女性比率が高い事務職はAIによる代替リスクが高く、214万人の余剰人材が発生する見込み。
同時に2040年に326万人ものAI・ロボット業界に従事する人材が不足する恐れがあり、女性のAI分野への参画が不足解消と成長のカギ。

2

- ✓全国20-59歳の女性1116人に調査した結果、全体的な利用頻度は低く、特に仕事での活用は限定的だと判明。
- ✓AI活用が進まない主因は、非学習層は「取り組みたいが自分には難しそう」(41%)、「何から始めればよいか不明」(30.1%)とのネガティブな声が多い。
- ✓しかし「女性と一緒に学べる場」への参加意欲は80.6%と高く、強い潜在ニーズが示された。

1章 AIが女性労働市場に及ぼす影響

1. 日本が直面する社会構造の変化と女性労働参加の拡大
2. AIの普及による仕事の再定義と代替リスク
3. IT人材需要の増加に伴う女性のキャリア転換の可能性

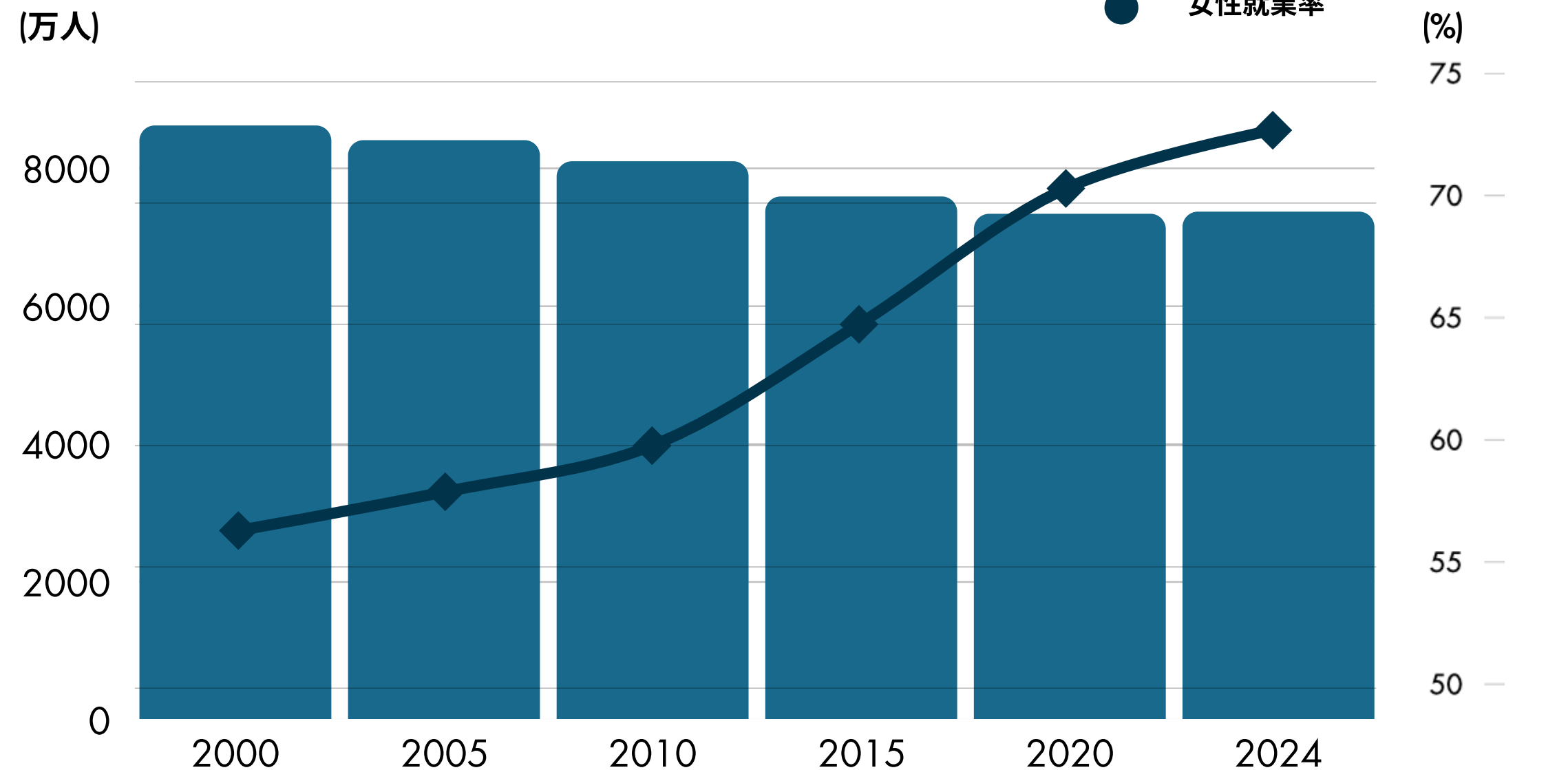
Chapter 1

日本が直面する社会構造の変化と 女性労働参加の拡大

総人口の減少、一方で増加する女性の労働力人口

日本の就労層の46.0%^{*1}を女性が占めており、今後の労働市場において重要な存在になっていきます。

図1：生産年齢人口の減少と女性就業率の上昇^{*2}



令和5年
雇用者総数に占める
女性の割合^{*1}

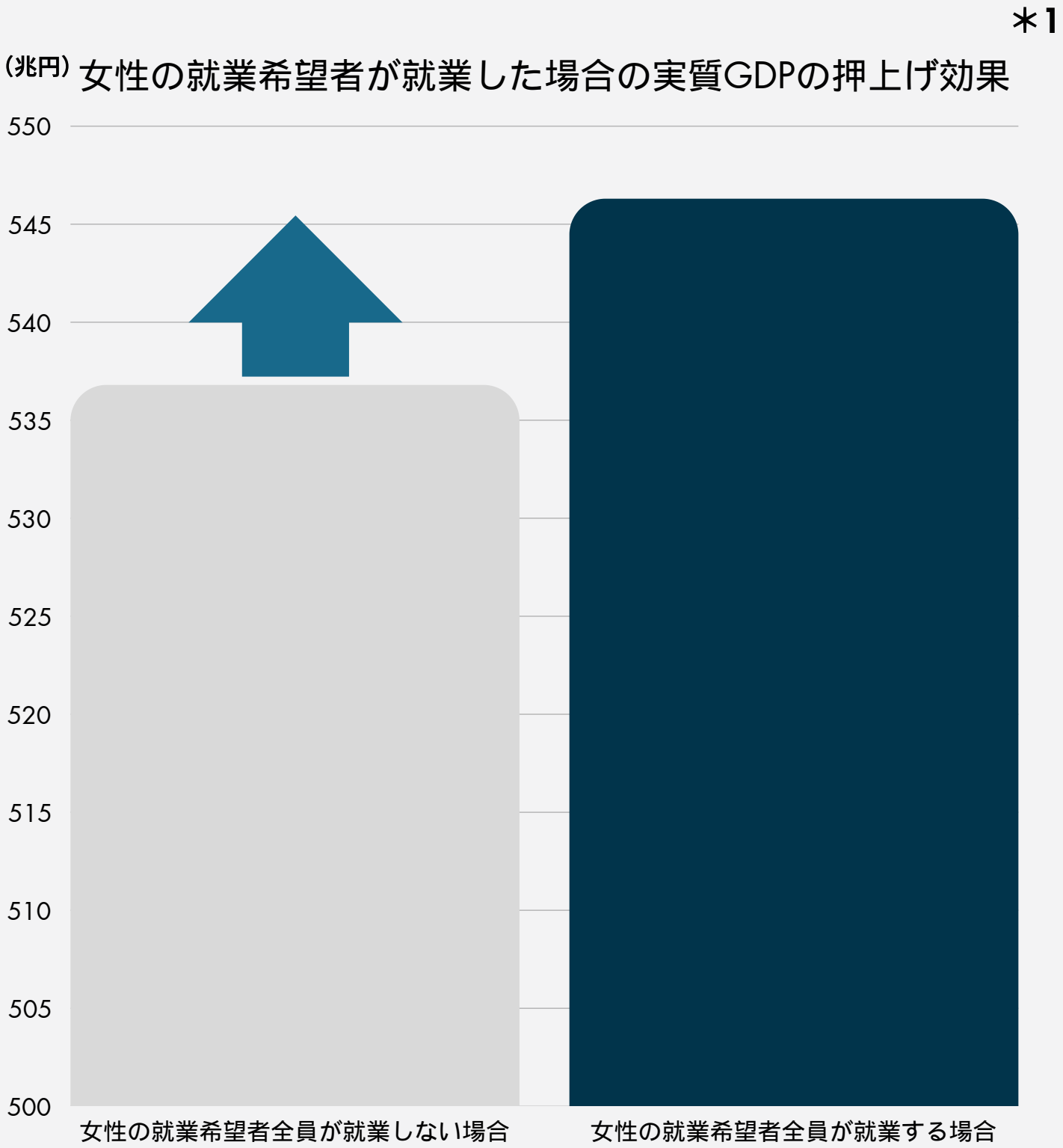
46.0%



^{*1}(出典)：厚生労働省「働く女性の状況 I 令和5年の働く女性の状況」(<https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujou/dl/23-01.pdf>)

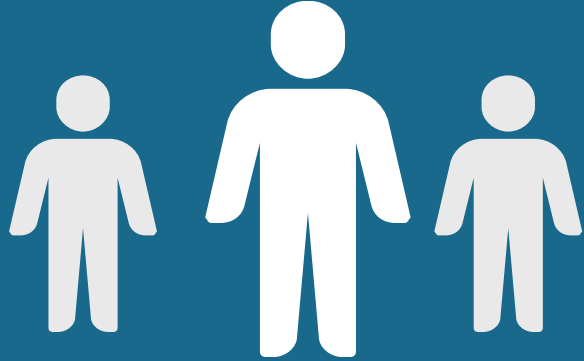
^{*2}(出典)：生産年齢人口については総務省「国勢調査」(年齢不詳人口を除く)、2020年以降、2024までは国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位・死亡中位推計)、2024年は総務省統計局人口推計(2024年(令和6年)10月1日)、女性の就業率は総務省「労働力調査(基本計)」に基づきWAIが作成。備考：なお、労働力調査では令和4(2022)年1月分結果から算出の基礎となるベンチマーク人口を令和2年(2020年)国勢調査結果を基準とする推計人口に切り替えた。当グラフでは、令和3(2021)年以前の数値について新基準切替え以前の既公表値を使用しています。

女性の就業希望者171万人が全員労働市場に参加すれば GDPを約10兆円押し上げる効果試算



 **全女性就業希望者が労働参加すれば
GDP+約10兆円の効果** ※1

女性の就業希望者
171万人 ※1



※1 (出典)：首相官邸ホームページ (<https://www.kantei.go.jp/jp/content/000116413.pdf>) に基づく。
備考：1. 実質GDPの押し上げ効果の試算にあたっては、コブ=ダグラス型の生産関数を前提に、成長会計の手法を用いている。以下の式に基づき、生産性を推計した後、生産性と固定資産が一定と仮定し、就業者数が171万人増加した場合の実質GDPを算出。
2. (実質GDP) = ln (生産性) + 労働分配率×ln (就業者数) + 資本分配率×ln (国の固定資産) 3. 女性の就業希望者は、内閣府男女共同参画局の『「女性の就業希望者」に関する資料』や総務省の『労働力調査』によると、非労働力人口のうち「就業を希望する女性」の割合を示す。

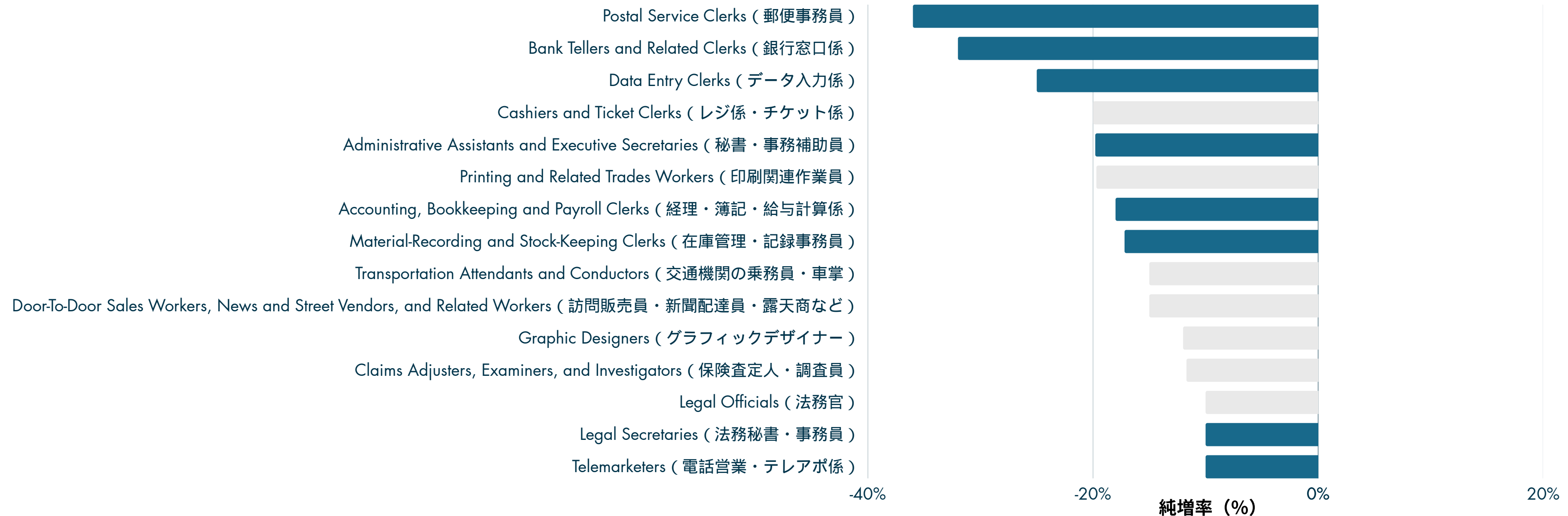
Chapter 2

AIの普及による仕事の再定義と 職の代替リスク

AIによる代替可能性が最も高い「定型業務」

世界経済フォーラム（WEF）によると、2030年までにAIによる自動化の可能性が高いのは、データ入力などの、日本でいう「事務職」に当たる定型的な業務であると分析されています。

最も減少が速い職種（割合ベース）* 1



* 1 (出典): World Economic Forum, The Future of Jobs Report 2025 に基づく。

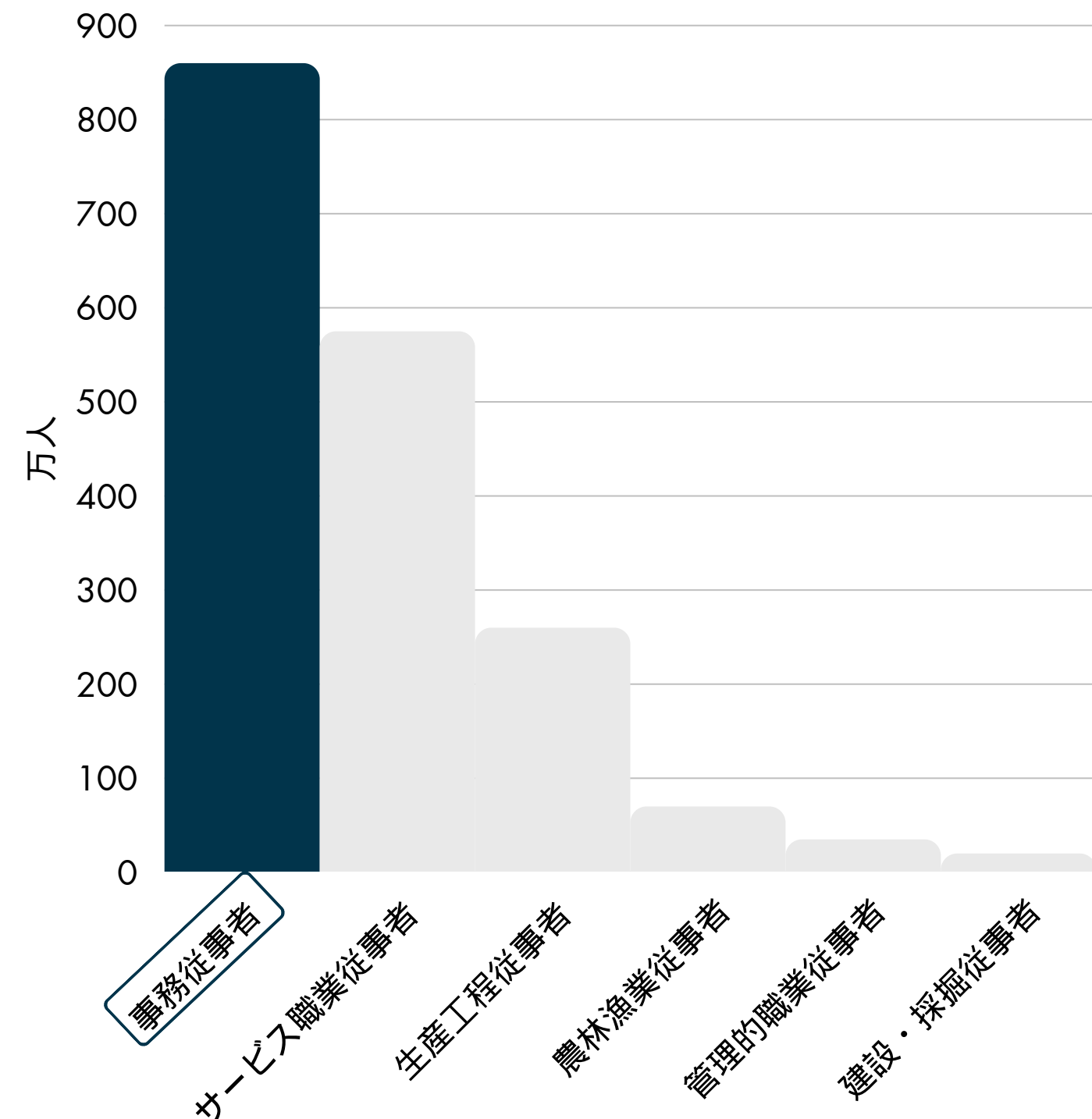
日本の女性就労者で最も多い職種でありながら、
AIによって最も置き換えられやすい「事務職」

事務職従事者
825万人^{*2}

国際通貨基金（International Monetary Fund）

「AIが代替するのは routine cognitive＝事務職」で、
女性が不釣り合いに影響を受けると指摘。

女性の職業別就業者数(2024年) *1



*1(出典):総務省統計局「労働力調査（基本集計）」の2024年平均結果（2025年1月31日公表）を基にWAIJ作成。

*2(出典):厚生労働省「働く女性の状況 I 令和5年の働く女性の状況」（<https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/dl/23-01.pdf>）

事務職における将来214万人の余剰見込み

女性労働力の強みが、そのまま弱みに転じてしまう可能性があります。

2040年に...

事務職の余剰人材

214万人^{*1}

事務・販売・サービス職の
余剰合計

約300万人^{*1}

日本は特に女性がAIの影響を強く受けやすい国であり、
女性の労働力は必要不可欠であるにもかかわらず、
最も奪われやすい存在というパラドックスが生じています。

変化するスキル需要——「人間らしさ」というかけがえのない価値を見直す時代



一般社団法人
Women AI Initiative Japan
代表理事
國本 知里

AIの進化は、これまでの仕事のやり方を根本から変えると同時に、人間にしか発揮できない能力の価値を高めています。その代表例が、**共感性や協調性といったソフトスキル**です。

LinkedIn調査によると(*1)、2030年までに**必要とされる仕事スキルの70%が変化**し、その多くはリーダーシップやコラボレーションなど対人スキルに移行するとされています。心理学的研究(*2)によれば、共感能力は性差が確認されており、対人反応性指数（IRI）を用いた複数の調査では、女性が男性よりも高い得点を示す傾向が一貫して報告されています。

共感力や協働力というソフトスキルは、もはや補助的なスキルではありません。イノベーションを生み出し、組織の成長を支える土台であり、社会全体の競争力を決める鍵となりつつあります。特に**女性が持つ共感力や協調性にAIスキルが掛け合わされると**、新しいリーダーシップの形や多様な意思決定の可能性が広がります。

AIは人間の感性を奪う存在ではなく、それを引き立て、社会全体に響かせる触媒です。**女性にとって、AIはリスクではなくチャンス**。代表理事として、この女性とAIの可能性が社会に広がっていくことを願っています。

*1(出典)：LinkedIn調べ

*2(出典)：Davis, 1980; Eisenberg & Lennon, 1983; Thompson & Voyer, 2014

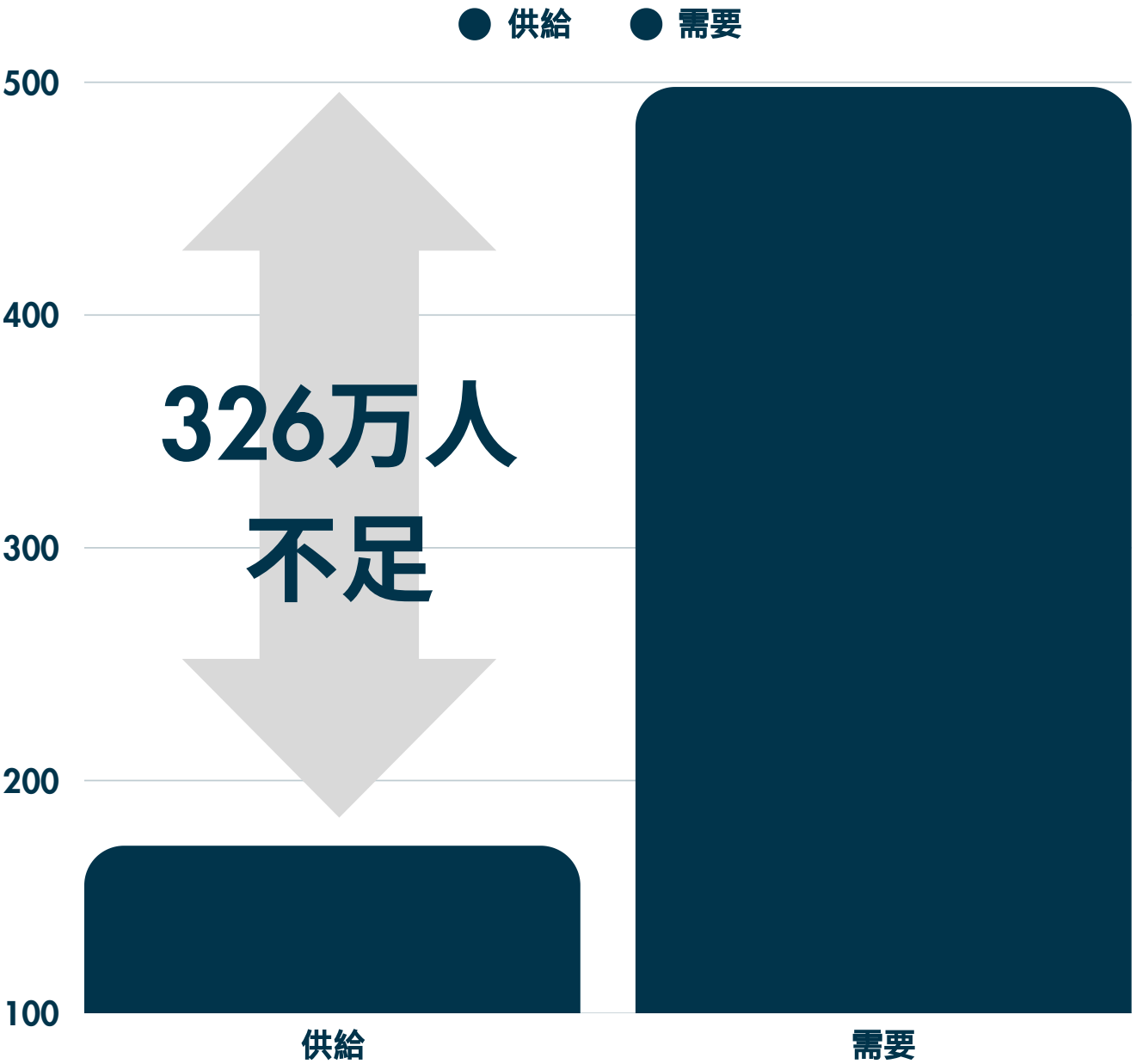
Chapter3

**AI・デジタル人材のニーズ拡大で
女性のキャリアシフトを後押し**

深刻なAI・デジタル人材不足

経済産業省の試算では、2040年の段階でAI・ロボットの活用を担う必要人材は498万人の需要に対し、326万人の不足が見込まれています。

2040年の先端IT人材の需給予想 *1



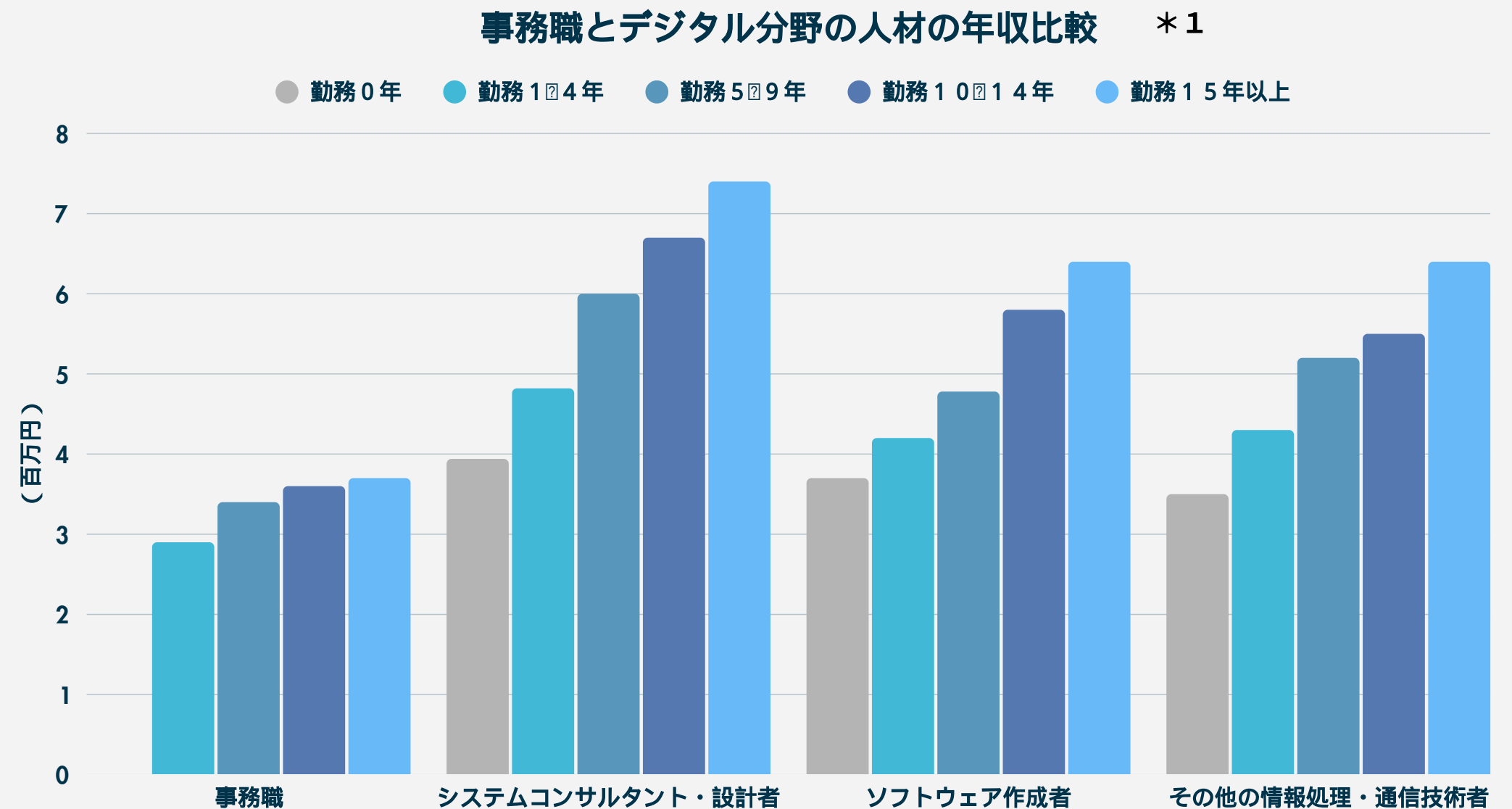
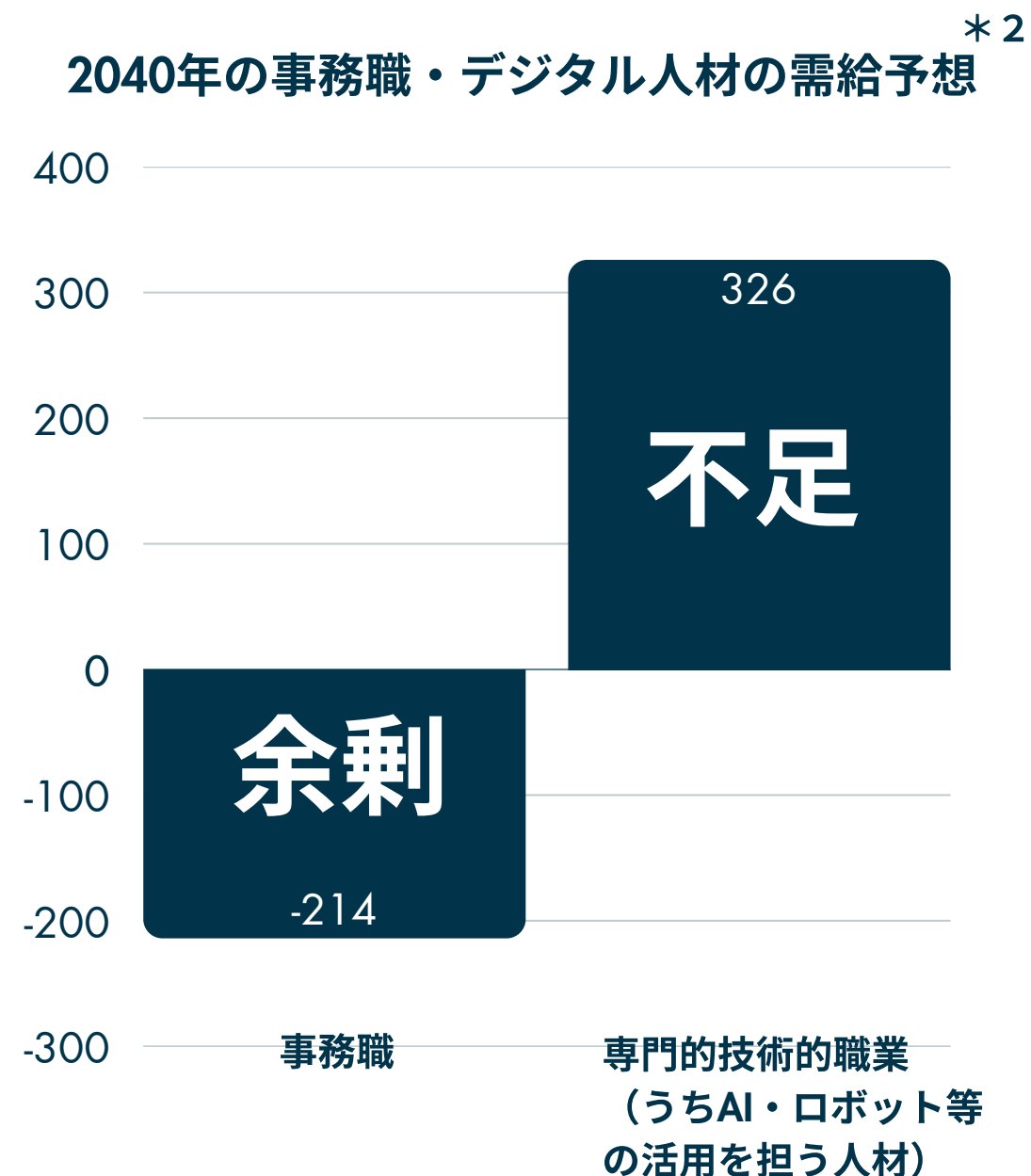
2040年AI・ロボット必要人材
498万人 *1

2040年AI・ロボットの活用担う人材不足
326万人 *1

※1 (出典)：経済産業省「2040年の産業構造・就業構造推計」(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/kaigi/dai34/shiryoku14.pdf)
備考：経済産業省は2040年を見据えた産業構造と就業構造の将来推計によると現状の人材供給の傾向が続いた場合、供給はわずか172万人と算出。

女性の就業は代替リスクの高い領域に偏り、高付加価値デジタル職への参画は限定的

事務職には人材の余剰がある一方で、デジタル人材は不足しており、労働市場では構造的なミスマッチが生じています。こうした状況下、デジタル人材に転向した場合、年収の向上も期待でき、キャリアの選択肢として有望です。



^{*1}(出典)：事務職の勤続年収は厚生労働省「令和4年賃金構造基本統計調査 | 職種第7表 | 女性」、システムコンサルタント・設計者～その他の情報処理・通信技術者のデータは厚生労働省『令和5年賃金構造基本統計調査』を基に内閣府男女共同参画局が作成した資料をもとにWAIJ作成

^{*2}(出典)：経済産業省「2040年の産業構造・就業構造推計」(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/kaigi/dai34/shiryou14.pdf)

現在、AI・デジタル業界における女性比率は約3割^{*1}ですが、
参画が進めば人材不足の解消につながり、
“AIに奪われる職”のリスクを超えて、
女性が日本社会の未来を牽引する可能性があります。

2章 AIに関する女性の意識と利用実態

1. 人口減少に伴う労働力不足
2. 意欲ある層は積極的
3. AI学習がもたらす未来像とキャリアへの期待

独自調査結果サマリ

■全体的な利用頻度は低く、特に仕事での活用は限定的。

■現在AIを学習中の人では、約2人に1人が毎日利用しており、学習層では活用が定着しつつある。

■AI活用が進まない主因は「ネガティブな印象」であり、「AIに頼りすぎるのは危険」と回答した人は30.6%、「取り組みたいが自分には難しそう」と答えた人は41.0%にのぼる。

■一方で学習者の中には、「とても便利」（36.1%）「自分の能力をサポートしてくれる」（27.8%）「新しい可能性にワクワクする」（33.3%）「生活や仕事に役立ちそう」（33.3%）とポジティブに評価する声も多い。

■不安要素としては「何から始めてよいかわからない」（30.1%）といった情報不足が挙げられたが、「女性と一緒に学べる場」へのニーズは強く、参加したいと回答した人が80.6%に達した。

調査名称	女性のAI活用・学習に関する実態調査
総回収数	総回収数 本調査 1,116ss
調査手法	オンラインリサーチ
本調査対象 条件	以下条件にて対象者を抽出 1) 全国20-59歳女性 2) 職業で学生・その他以外に該当
回収内訳	本調査対象条件に合致する女性人口の構成比に合わせて回収 20代 191人 30代 254人 40代 313人 50代 358人
調査時期	2025年8月15日～2025年8月16日

※本コンテンツを利用する際は出典を明記し、編集・加工して利用する場合はその旨と主体を併せて記載すること。
提供元が作成した未加工の情報であるかのように公表・利用してはならない。

Chapter 1

AIの認知度と利用実態

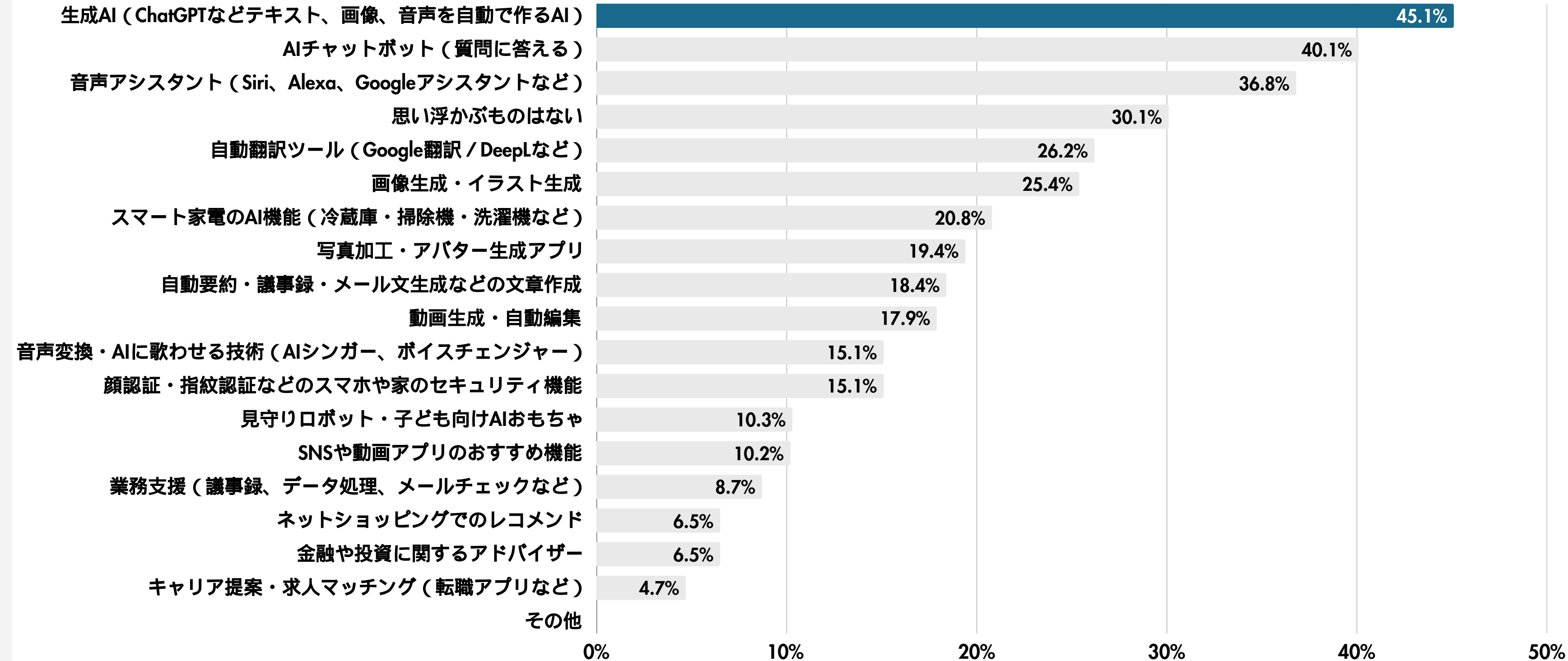
ChatGPT の登場から2年以上が経ち、AI 活用への注目は高まっているものの、職場における AI 活用は依然として低調で、個人利用においても「認知」と「実践」の間には大きなギャップが存在します。

一方で、AI を学ぶ意欲を持つ層では、日常的な活用がすでに定着しており、利用する人とならない人の「二極化」が鮮明になってきました。

この章では、我々の調査結果をもとに、AI の認知や利用状況について詳しく紐解いていきます

Q. 「AI」と聞いて思い浮かぶ技術やサービス（全て選択）^[N=1,116]

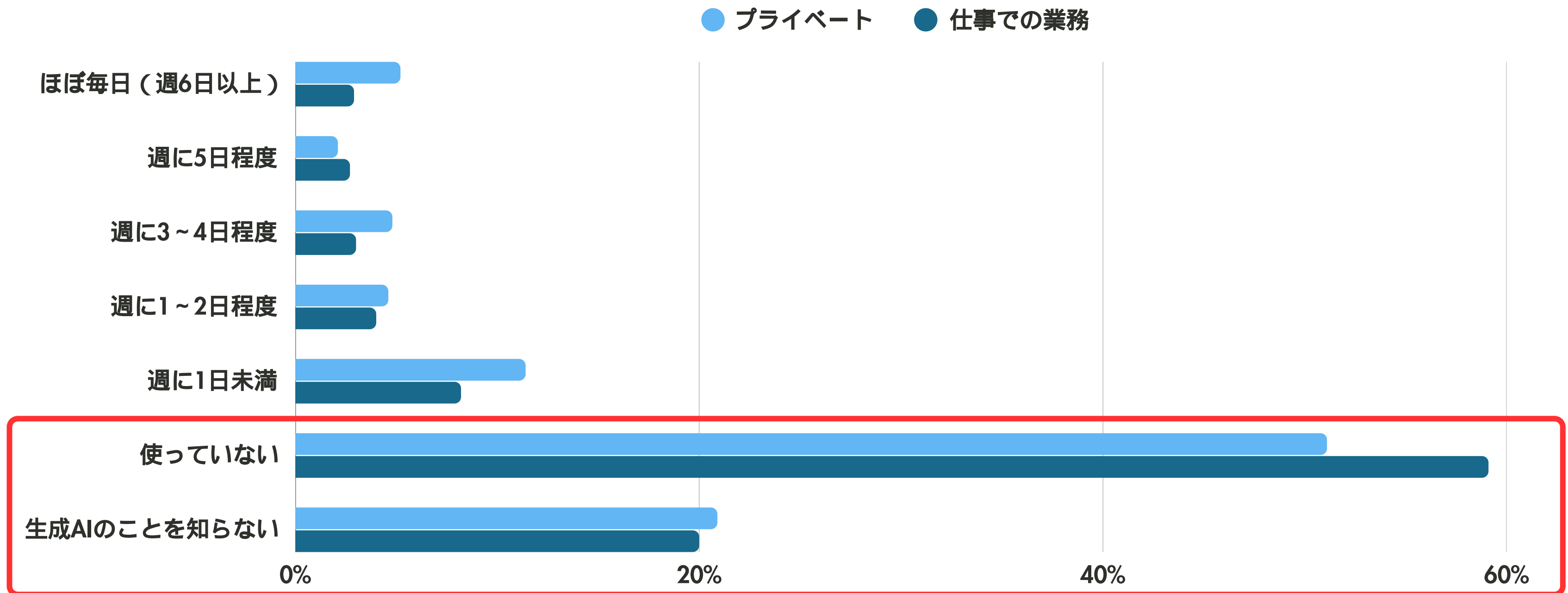
「AIのイメージ」については、半数近くが「生成AI」と回答しています。



シチュエーション別（プライベート・仕事）

Q.生成AIをどの程度、利用していますか？ [N=1,116]

年齢や職種を問わず、約半数の女性が生成AIを日常的に利用しておらず、生成AIについて知らない状況です。ほぼ毎日使用している女性は、約3～5%という結果です。

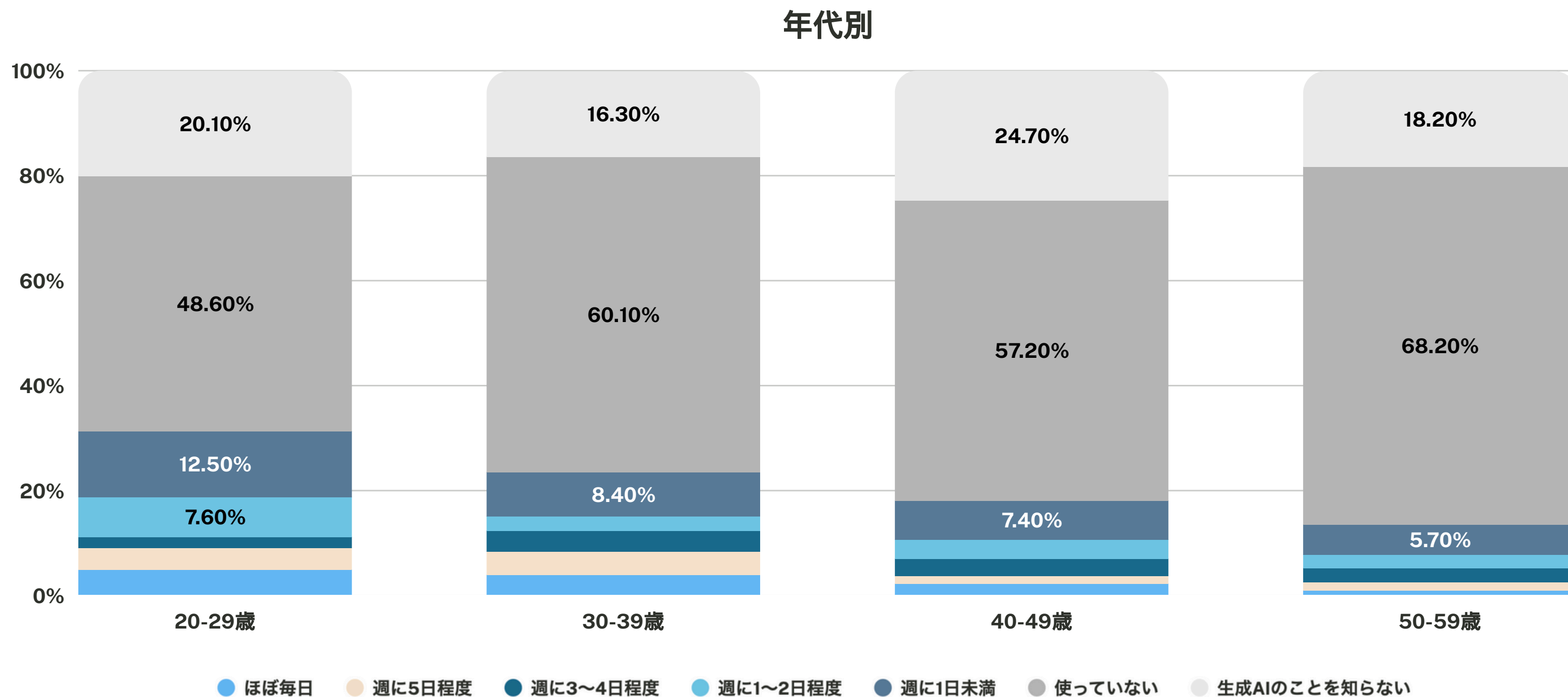


年代別

Q.生成AIをどの程度、利用していますか？ [N=1,116]

年代が上がるにつれて生成AIの活用頻度は低下しています。

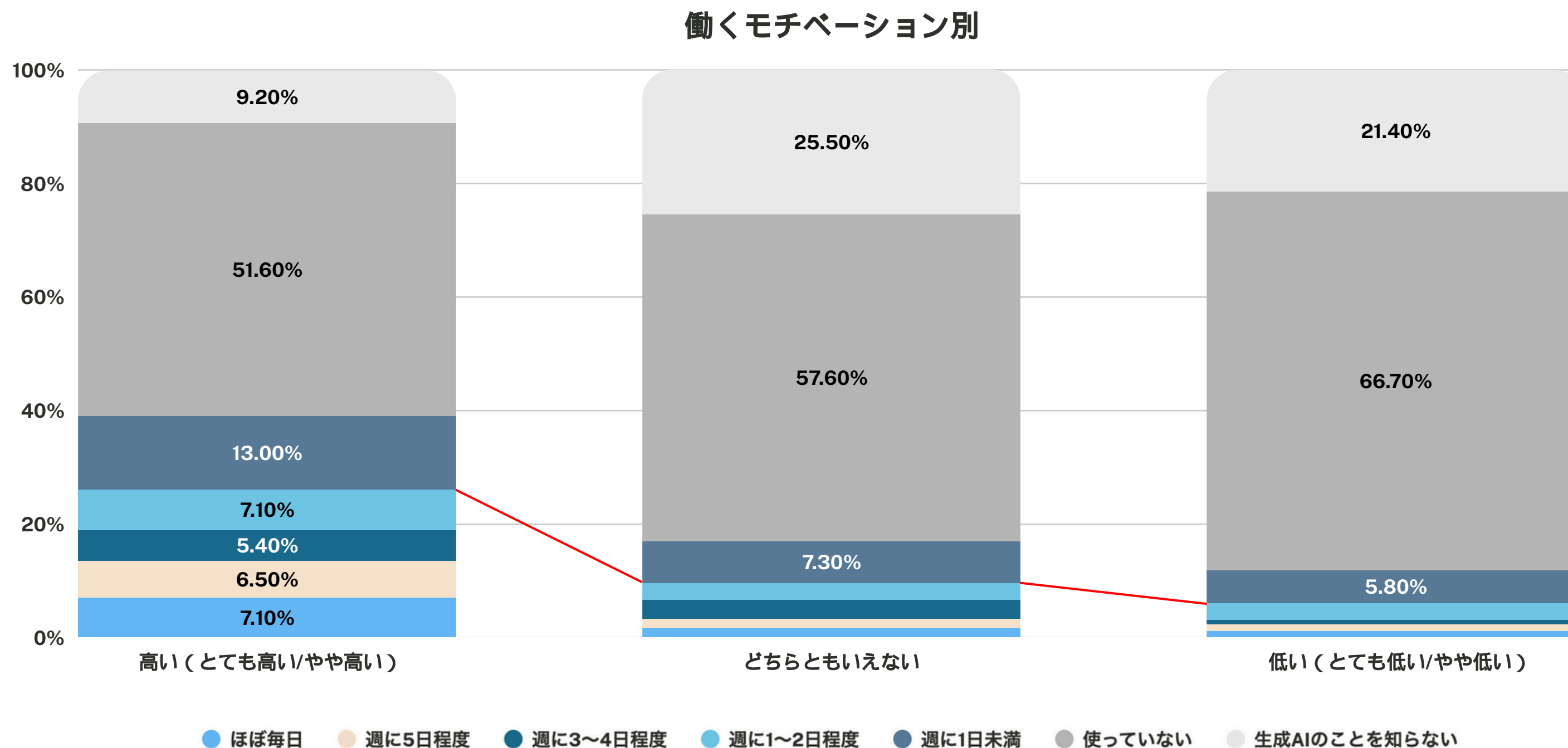
20代女性の約3割が生成AIを活用している一方で、50代女性では約1.5割にとどまっています。



働くモチベーション別 Q.生成AIをどの程度、利用していますか？

[N=1,116]

働くモチベーションが高い女性の約2割は、週1回以上の頻度で生成AIを活用しています。
一方で、働くモチベーションが低い女性の約9割は、生成AIを活用していないか、あるいは知らない状況です。



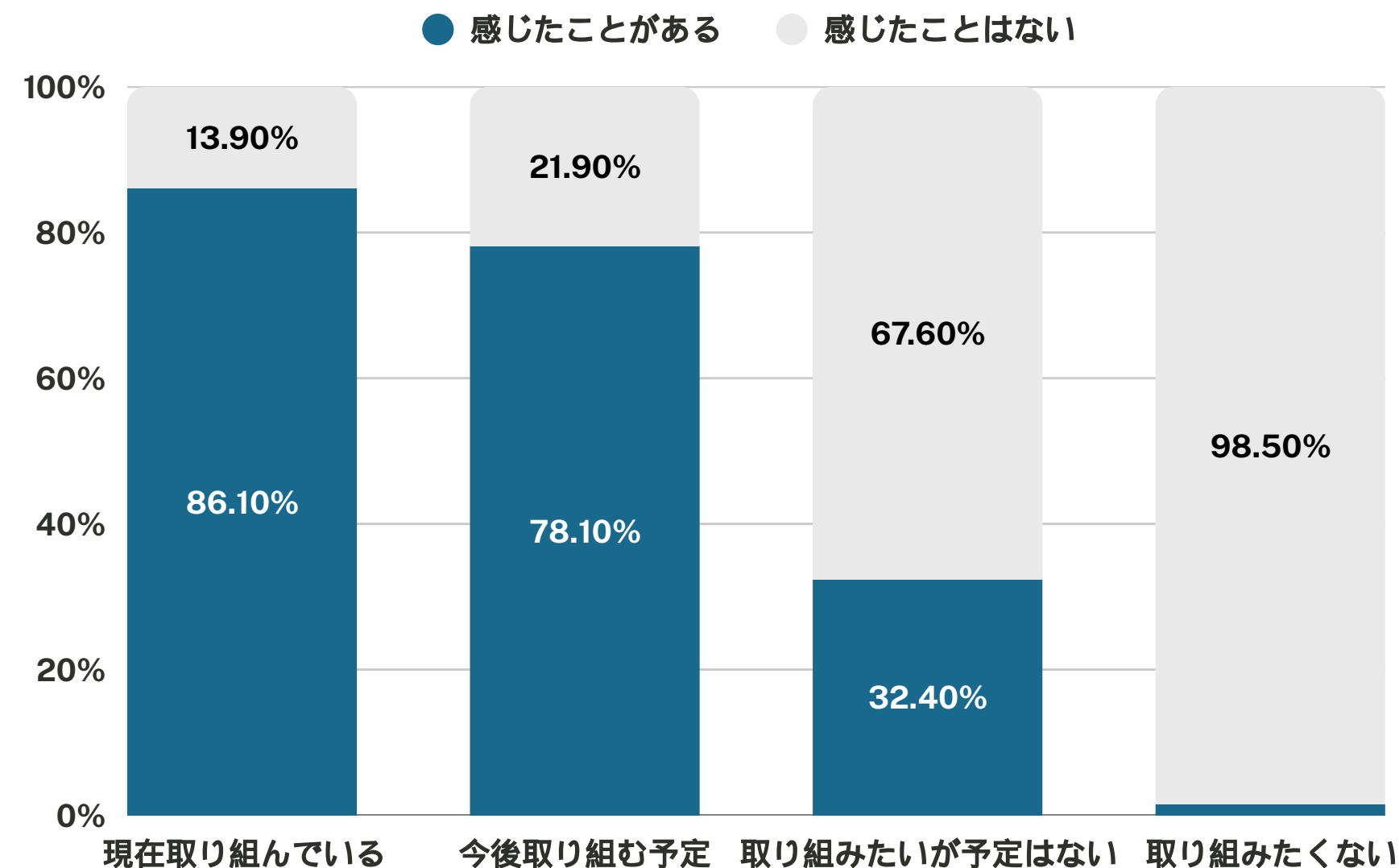
生成AIを学習中の人に Q.生成AIをどの程度、利用していますか？

活用していない人が多い中で、「生成AIについて現在学習中の人」の約2人に1人は毎日利用しているという結果。
また、その層では「生成AI学習の必要性を強く実感」している割合が高いです。

Q.あなたは生成AIを普段どのくらいの頻度で利用していますか。



Q.AIや生成AIに関連するスキルを学ぶ必要性を感じたことはありますか。

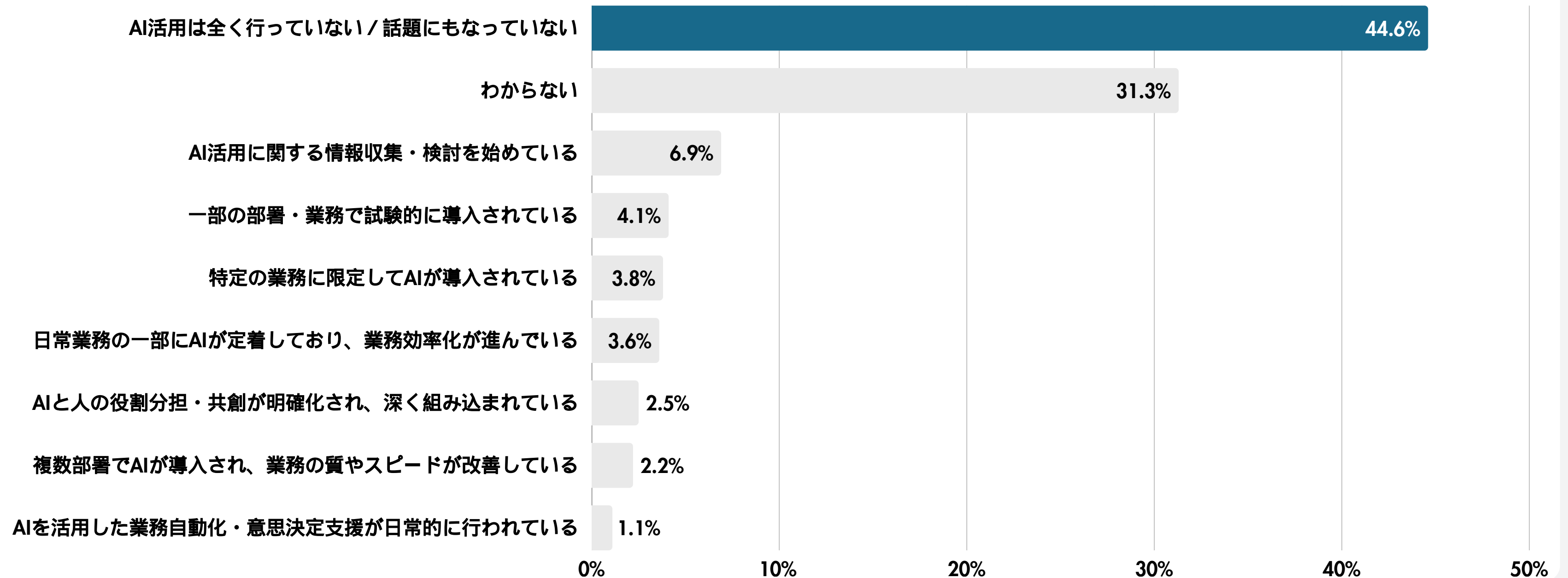


[N=1,116]

職場でのAI活用に触れる機会の乏しい環境

約45%の女性の職場ではAI活用が全く行われておらず、話題にもなっていない状況です。活用が進んでいない状況は、個人単位だけでなく職場においても明確になっています。

Q.あなたの職場では、業務でのAI活用はどの程度進んでいますか。最も近いものをお知らせください。[N=1,116]



Chapter 2

AI活用が進まない原因

生成 AI への関心が高まる一方で、
多くの女性にとっては、まだ身近な存在にはなっていません。
その主な要因は、「AIに頼りすぎるのは危険」といったリスク面への懸念など、
根強い不安感があるためです。

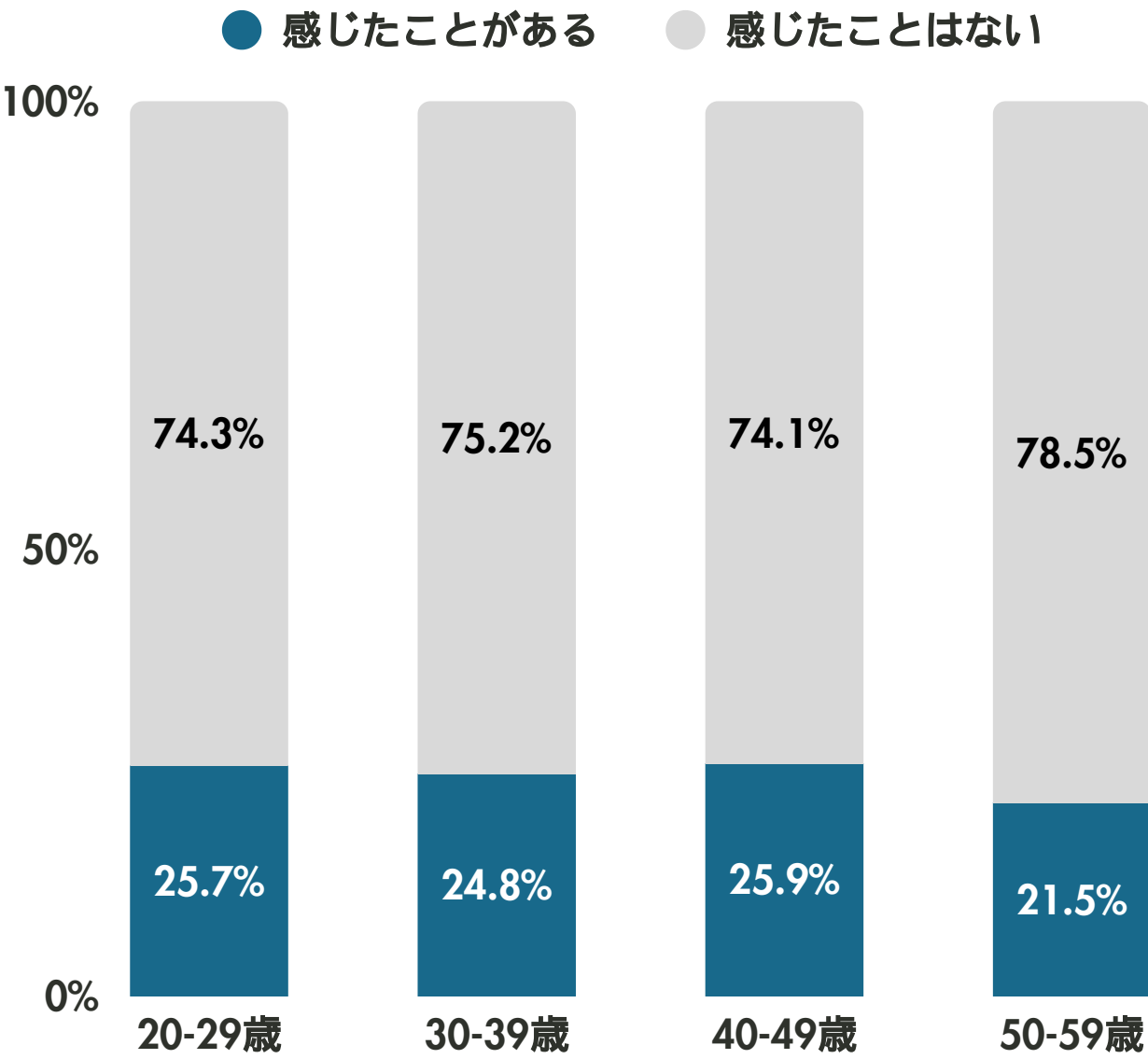
しかし、AIに対してネガティブなイメージを持つ人々の深層を探ってみると、
その多くが潜在的な学習意欲を抱えていることも明らかになりました。

この章では、調査データをもとに、女性の AI 活用を阻む「壁」の正体と、
学習意欲を持つ人々が描く理想像について解説していきます。

生成AIスキルを学ぶ必要性を認識している人はまだ少数

生成AIを学ぶ必要性を感じる人はどの年代にも少ない状況ですが、必要性を感じている人たちは様々な理由で興味を持ち始めており、今後さらに増加していく可能性が高いと考えられます。

Q.AIや生成AIに関連するスキルを学ぶ必要性を感じたことはありますか。



Q.必要性を感じた理由をお知らせください。

必要性を感じた理由 TOP5

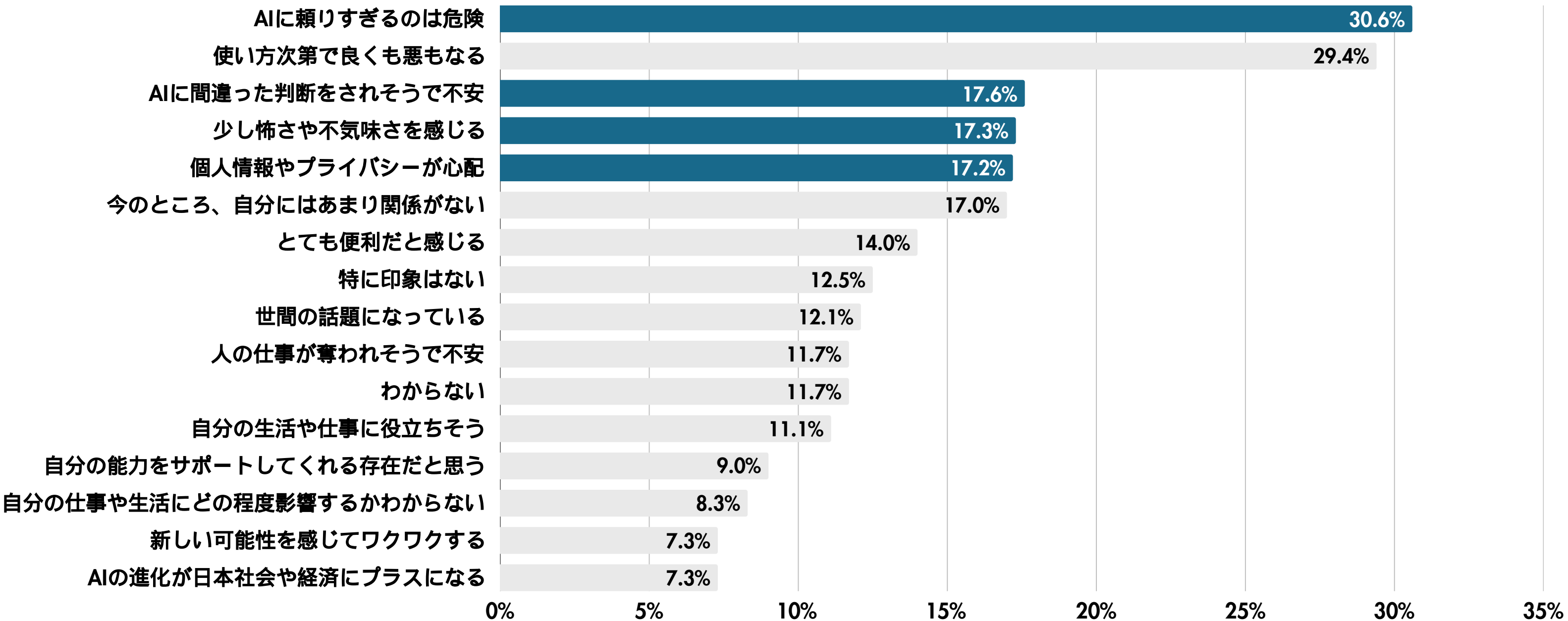
- SNSなどで多く目にする
- スキルの幅を広げたい
- 業務を効率化できると感じた
- 新しい技術に興味がある
- キャリアの選択肢が狭まると感じた

[N=1,116]

女性のAI活用停滞の背景にあるAIへの「ネガティブな印象」

AIに対する印象で上位を占めているのは、AI活用に伴うリスクや不気味さを感じる項目が多くありました。自身の業務を代替できる一方で、こうしたネガティブなイメージが生成AI活用を阻んでいるようです。

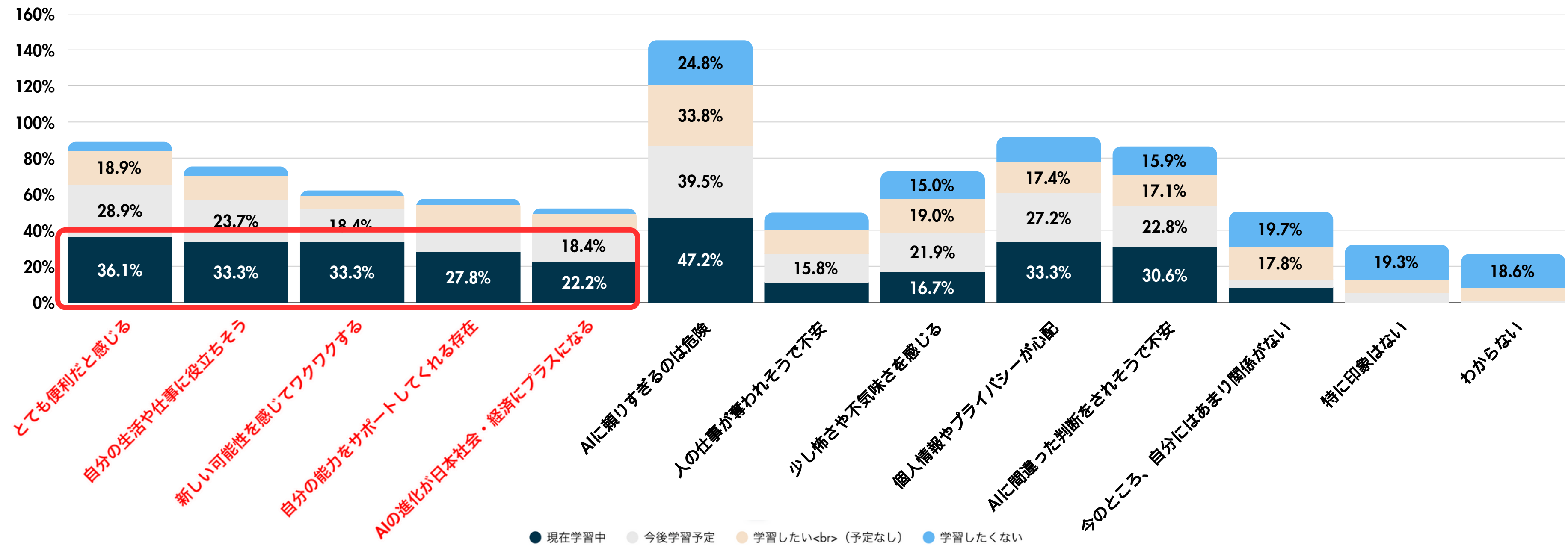
Q.AIに対するあなたの印象として近いものを全て選んでください。[N=1,116]



生成AIを学習中の女性に見られるAIへの前向きな姿勢

生成AIを学習している人は、リスク面に関する理解が深まる一方で、利便性や未来への可能性を感じ、楽しみながら学んでいる人も一定数いることがわかっています。

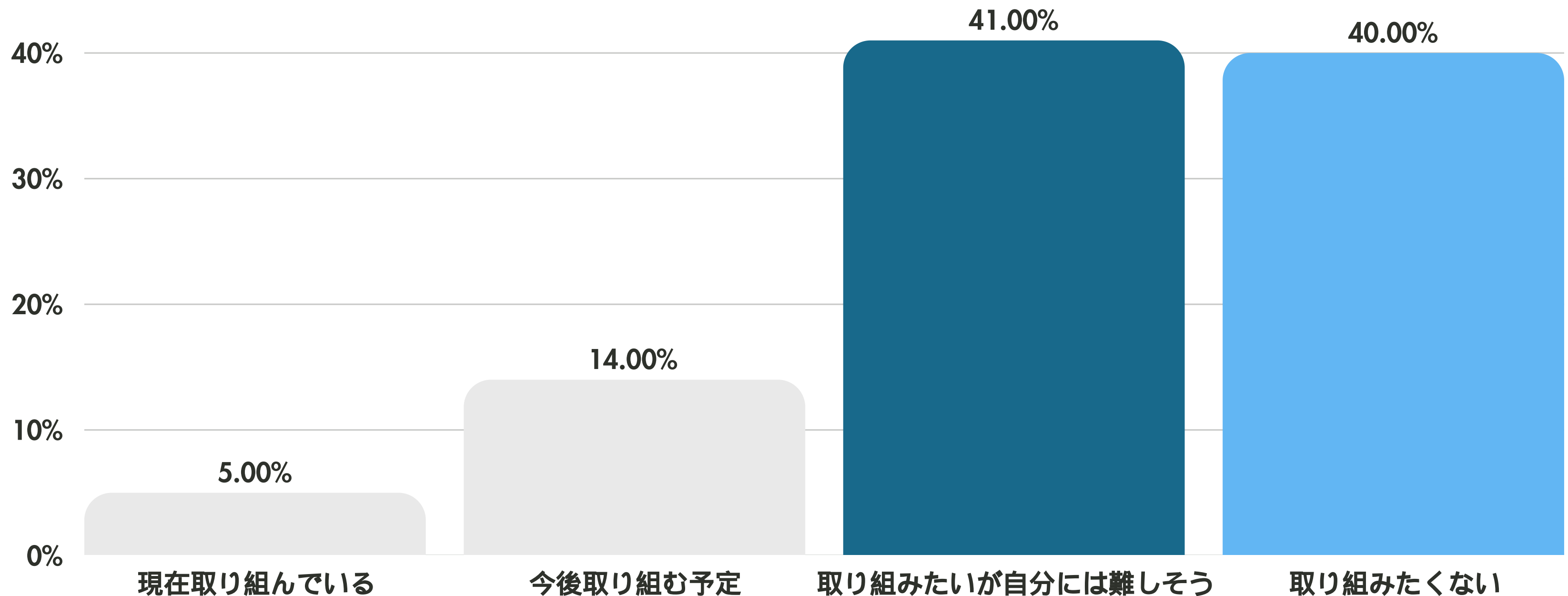
Q.AIに対するあなたの印象として近いものを全て選んでください。[N=1,116]



約8割が抱える、AI活用への壁

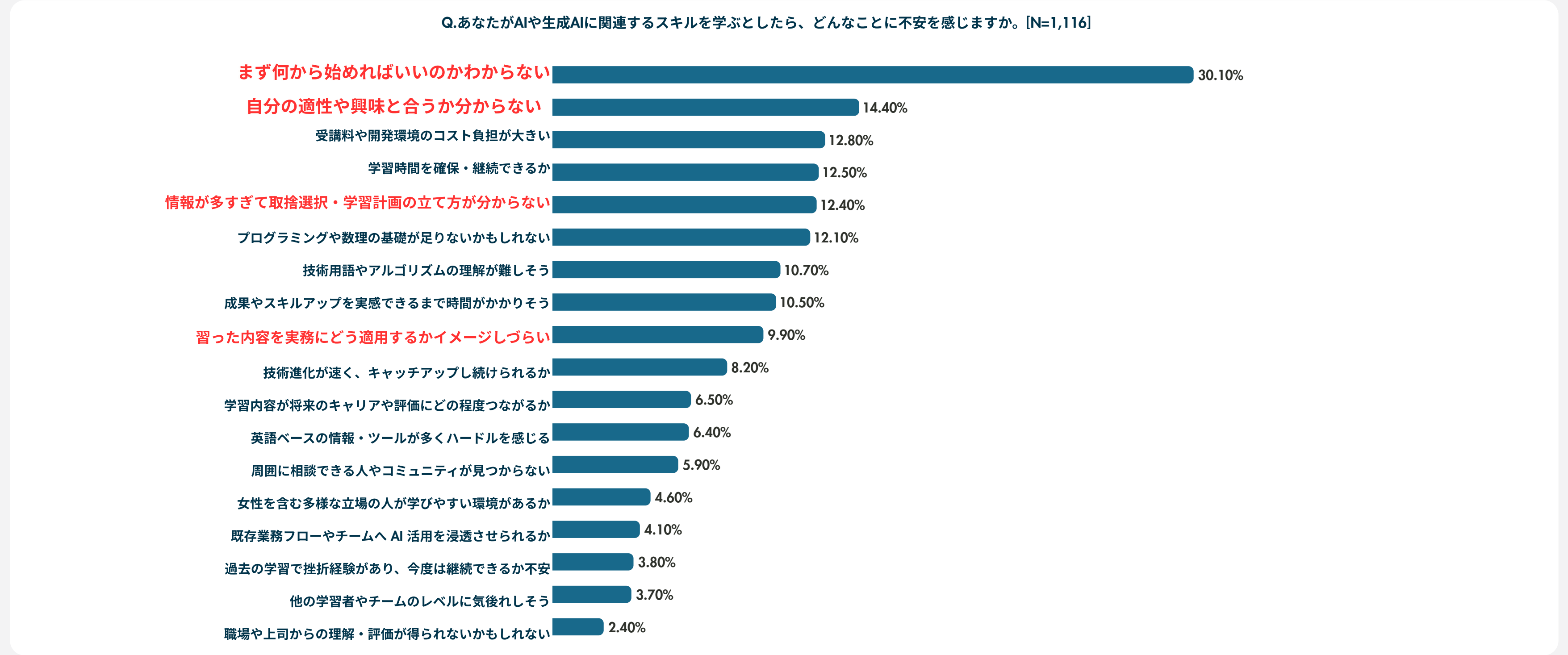
41%の女性は意欲があるものの、生成AIに取り組むには難しいといったイメージ活用の進まない要因となっています。また、取り組みたくないとする女性も40%存在しており、約8割がAIに取り組むことにハードルを感じています。

Q.AIに対するあなたの印象として近いものを全て選んでください。[N=1,116]



女性が生成AIスキルを学ぶ上での不安要素は「情報不足」

女性が生成AIスキルを学ぶ際に最も大きな不安要素として挙げられたのは「情報不足」でした。全体の半分以上が学習の出発点や指針を見失っている状況です。こうした情報不足が、女性にとって生成AIスキル習得の大きなハードルになっていることが浮き彫りとなりました。



生成AIを学びたい人にとっての理想の支援は「教材」より「環境」

約8割の女性が一緒に学べる場に参加したいと回答しており、生成AIを学んでいる人や学びたいと考えている人は、学びの質を高める手段よりも、一緒に学べる人がいる「学習環境」を求めていることがわかりました。

Q.あなたがAIや生成AIに関連するスキルを学ぶ上で「支援があったら助かる」と思うものを全てお知らせください。[N=1,116]

AIを学ぶ上で“あったら”助かるもの

参加しやすい学習環境

20.9%

自分に合った学び方を診断

16.7%

スマホで学べる教材

15.8%

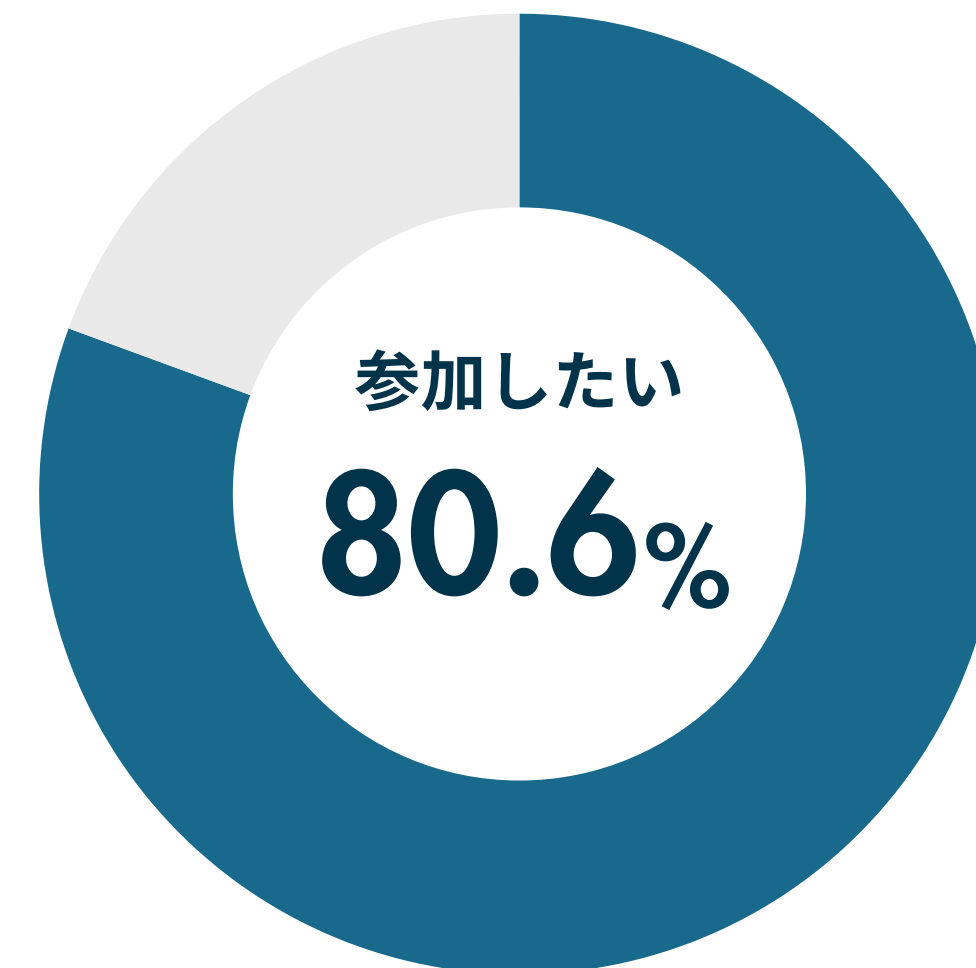
受講料の費用補助

13.3%

オンライン学習の機会

12.5%

『女性』と一緒に学べる場に参加したいか



「with AI時代を可能性が広がる時代とする」

新たなテクノロジーが登場すると、その活用や議論の「場」にはしばしばジェンダーバランスの偏りが生まれます。例えば、生成AIに関するイベントの登壇者の多くが男性で占められていることに気づく方も少なくないのではないのでしょうか。こうした景色は、女性たちに「自分の居場所はあるのか」という問いを投げかけ、関与をためらわせる要因にもなります。

本調査が明らかにしたのは、その構造的な課題の一端です。全国の20-59歳女性のうち、生成AIの利用について「知らない」「使っていない」と答えた人は約半数にのぼり、プライベートでも仕事でも生成AIが縁遠い存在であることが示されています。

さらにAI関連スキルの学習状況では、「取り組みたいが自分には難しそう」「取り組みたくない」と答えた人が約8割と、**多くの女性が学習に対してハードルの高さや消極的な印象を抱いている**ことが分かります。

一方で、「女性と一緒に学べる場」への参加意向には可能性が見られます。AI関連スキルを「現在取り組んでいる」「今後取り組む予定」と答えた層では、8割以上が「とても参加したい」「やや参加したい」と回答。また、「取り組みたいが自分には難しそう」と答えた層でも41%が参加意向を示しており、学習そのものに不安や抵抗があっても、**仲間と共に学べる環境があれば一歩を踏み出せる可能性**が伺えます。

私が所属するみんなのコードは、「誰もがテクノロジーを創造的に楽しむ国にする」をビジョンに掲げ、小中高校や地域における情報教育の普及に取り組んできました。私たちは「果たして『誰も』に届けられているのか」という問いを大切にしています。**with AI時代を「機会や環境による格差が広がる時代」ではなく「可能性が広がる時代」とするために**、本調査で明らかになった現状や課題を土台に、より多くの女性が一歩を踏み出せる機会が広がることを期待しています。



特定非営利活動法人みんなのコード CEO
杉之原 明子

3 章 女性×AIで拓く新しいキャリア

- ・ AI学習がもたらす未来像とキャリアへの期待

Chapter1

AI学習がもたらす未来像と キャリアへの期待

ここまでの、生成AIの活用状況や生成AIへのイメージの調査内容を踏まえ、AI領域がまだまだ“ブルーオーシャン”であることがわかりました。

余剰人材が増える課題がある中で、
「AI活用」というキーワードが自身のキャリアを上げるために重要なスキルの1つであることが考えられます。

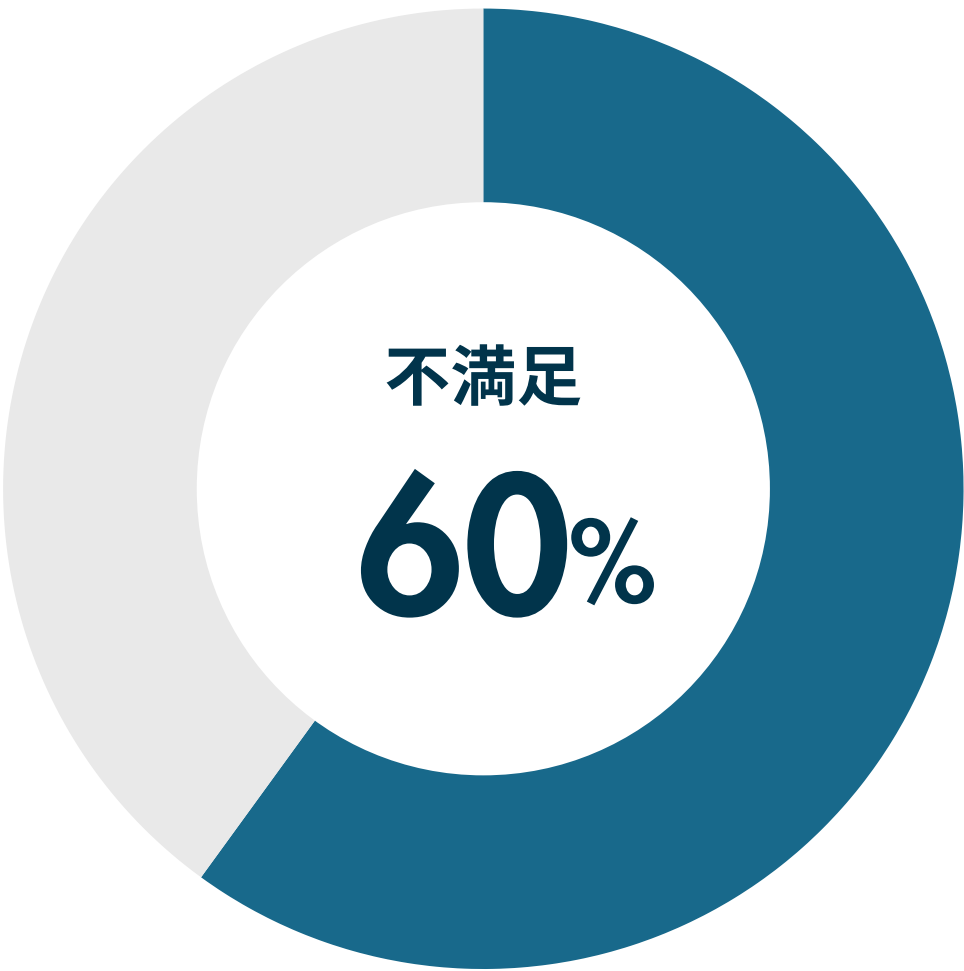
この章では、「女性のキャリア観」にスポットを当てた調査をもとに現在どのようなキャリア観を持つ女性が最も多いか紐解いていきたいと思います。

現状のキャリアに不満を抱く女性「6割」

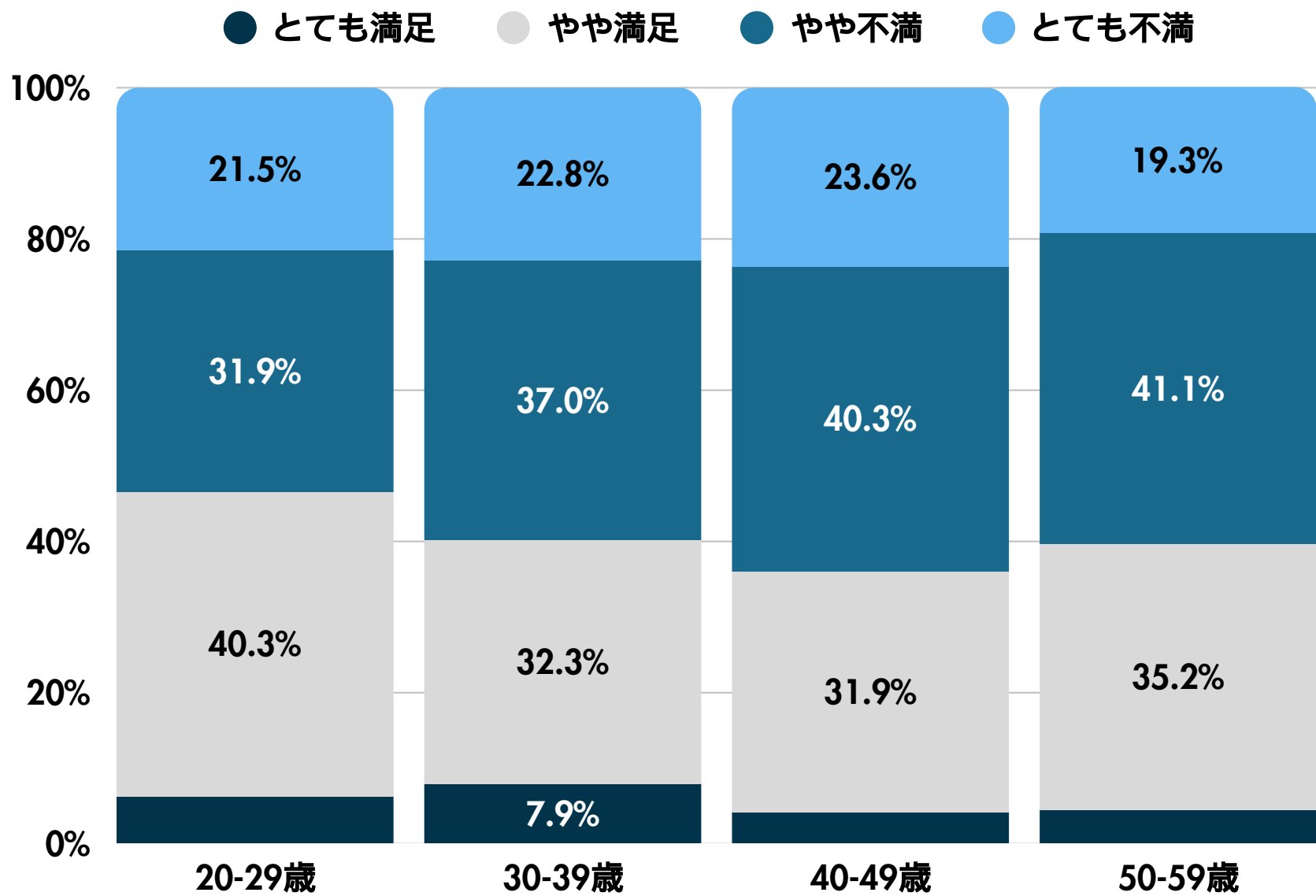
現状のキャリアに対して「不満」が「満足」を上回っており、40代では「不満」がもっとも多く、20代は相対的に満足度が高いことがわかりました。

Q.あなた自身の現在までのキャリアについてどの程度満足していますか。[N=1,116]

キャリアへの満足



年代別

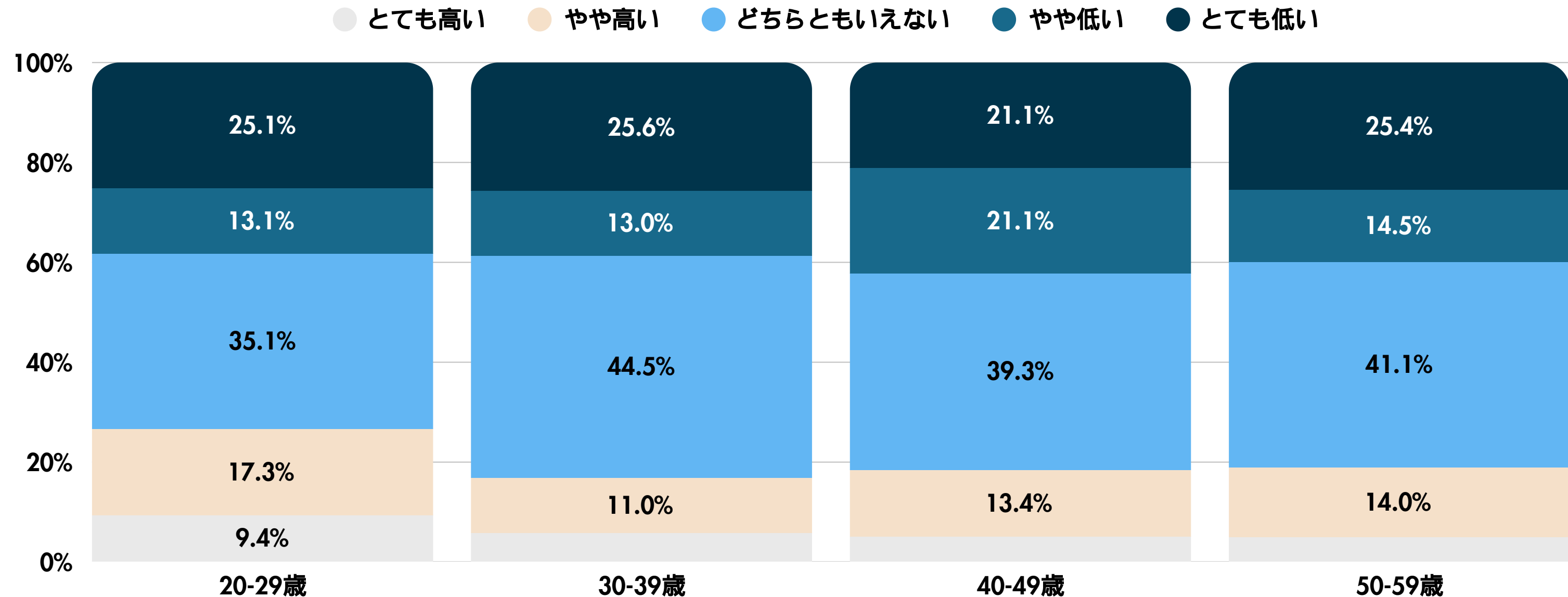


「働く」モチベーションも全体的に低い傾向

「20代」は他の年代と比べて、働くことに対してモチベーションが高い傾向にあります。
しかし、全体的には『どちらともいえない』または『低い』と回答した人が多い結果となりました。

Q.現在、あなたは「働くこと」についてどの程度モチベーションを感じていますか。[N=1,116]

年代別



働く意欲を高める要因で最も多かったのは、「仕事と私生活の調和」

どの年代も、プライベートに関する要因がモチベーションを高めることにつながることがわかりました。
なお、「当てはまらない」と回答する声も一部にありました。

Q.あなたが「働くこと」へのモチベーションを高める主な要因は何ですか。（当てはまる内容を3つまで） [N=1,116]

モチベーション要因 TOP5

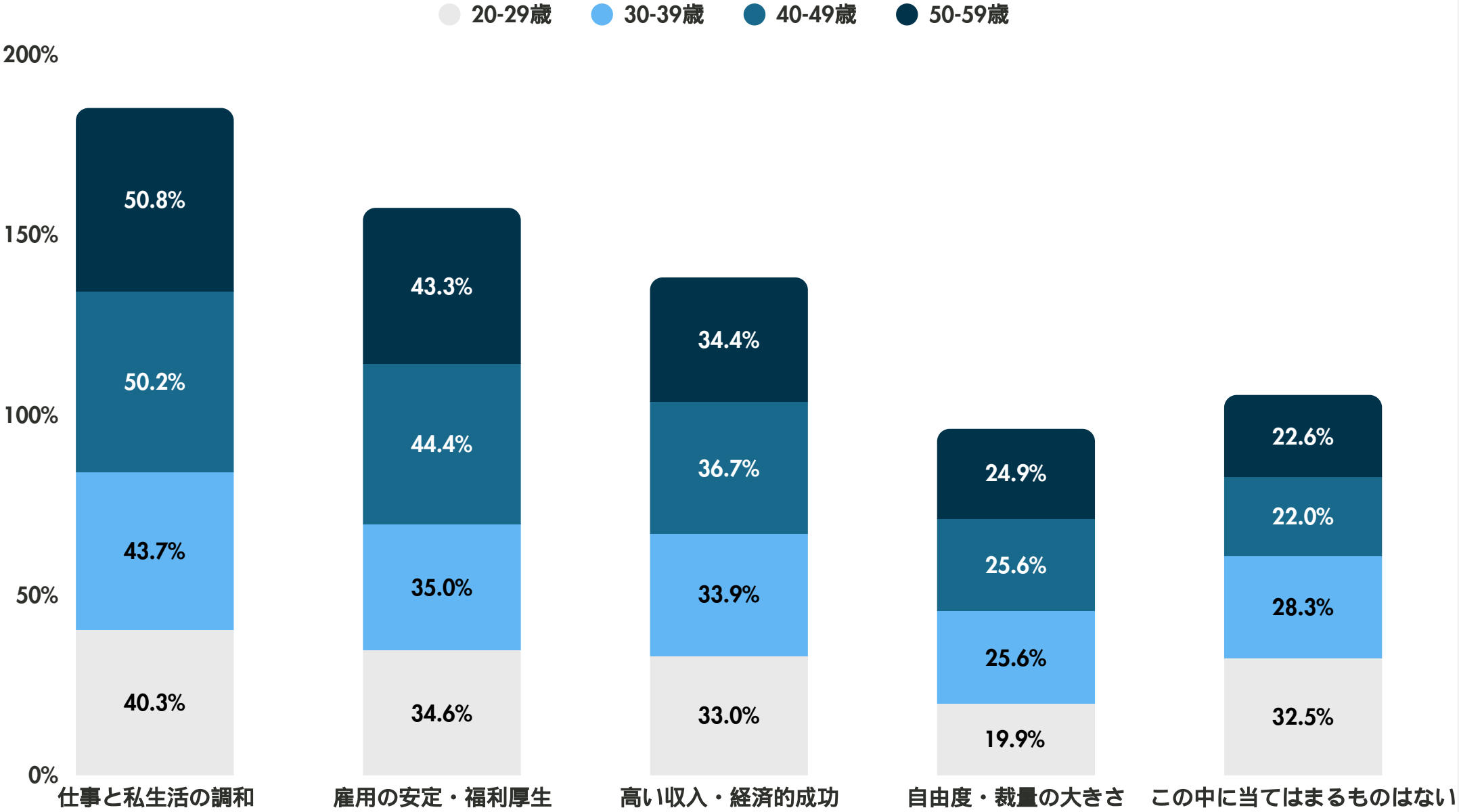
仕事と私生活の調和

雇用の安定・福利厚生

高い収入・経済的成功

当てはまるものはない

自由度・裁量の大きさ



生成AIを学習している女性は、“働き方の選択肢”を広げたい

生成AIスキルを学ぶことで期待していることが、学習予定・学習中の人とそうでない人で大きく異なっており、学習予定・学習中の方が「キャリアに関連する」項目を期待していることがわかりました。

Q.AIや生成AIに関連するスキルを学ぶことで、あなた自身の生活やキャリアにどのような影響があることを期待しますか。[N=1,116]

<全体のランキング>

AIスキルへの期待 TOP5

特に期待していない

日常生活に役立てたい

自分らしい働き方を実現

働き方に柔軟性を持たせたい

自由度・裁量の大きさ

<生成AI学習予定・学習中>

AIスキルへの期待 TOP5

自分らしい働き方を実現

働き方に柔軟性を持たせたい

新しいことに挑戦する自信をつけたい

業務を効率化・自動化して、
仕事の負担を減らしたい

より質の高い成果を出せるようになりたい

「AI×女性」で拓く キャリアと企業成長の未来

生成 AI の進化は、女性のキャリア形成と企業の競争力強化を同時に実現する絶好の機会です。

今回の調査が示すように、20～50 代の多くの女性は AI の存在を認知しながらも、「取り組みたいが自分には難しそう」41%、「何から始めてよいか分からない」30.1%と 心理的ハードルを抱えています。これは「知らないことに不安を覚える」という人間の特性によるもので、情報不足が漠然とした不安を生んでいるのです。ならば知る機会を増やせばよい。実際、「女性同士で学ぶ場に参加したい」人は 80%に達し、**環境が整えば行動は加速することが明らかになりました。**

AI活用は単なる IT スキルではなく、業務効率化で時間を生み、**ワークライフバランスとキャリア自律を両立させる「生き方の選択肢」**を広げます。今回の調査では 20～50 代全ての世代の女性がモチベーションを高める要因として「仕事と私生活の調和」を最重視しており、AI活用による効率化はその願いに応えることができます。これまで培った経験にAI スキルを掛け合わせれば、**ライフステージを超えた再挑戦や新たな職域での活躍**が現実になります。

一方、国内企業の約45%では AI活用が進んでおらず、AI人材の不足は深刻です。国内には約 825万人の女性事務職がおり、業務フローや現場課題に精通する彼女たちは、生成 AI を活用した業務自動化・データ分析・サービス改善など AI を実務に落とし込み成果へ導く力を秘めています。既存業務を熟知した優秀人材にAI スキルを体系的に付与することは、企業の成長と社会全体の競争力を押し上げる最も効果的な戦略の一つです。

Women AI Initiative Japan では、女性が安心して AI を学び合える場を創出し、憶測ではなくニュートラルに AI を知る機会を提供しています。今こそ企業と女性がともに AI を学び、未来の働き方を創造する時です。



**ウーマンズリーダーシップ
インスティテュート株式会社
代表取締役 CEO
川嶋 治子**

このように、現状の仕事に満足していない人が多い一方で、
共通して目指す理想の姿は「仕事とプライベートの両立」であることが分かりました。

生産性を高め、業務を効率化して時間を生み出すといった AI 活用は、
多くの人が思い描く理想の働き方を実現するための有効なサポート手段です。

冒頭でお伝えした社会背景を踏まえると、
将来を見据えて AI を活用することで、
自然と自身のキャリアの幅を広げられることが明らかになりました。

「AIとともに、女性たちは次世代の可能性を切り拓いていける」

AIの進化は、これまでの働き方や創造のかたちを大きく変えつつあります。特にクリエイティブ領域では、AIが作業の効率化やアイデアの可視化を担うことで、従来は時間や環境の制約に縛られていた人々に、新しい挑戦の機会を与えています。

私自身、専業主婦の期間があり、どのように社会に自分の力を還元できるか悩んだ時期もありました。時間的にも精神的にも制約がある中で、自分の経験や感性を活かせる場を見つけるのは簡単ではありません。しかし、**AIを活用することで、自分のペースで表現し、社会や世界とつながることが可能**になると感じています。

これまで「才能はあるのに機会に恵まれなかった」ケースでも、デザインや音楽、映像、文章といったあらゆる分野で花開いていくでしょう。AIは多様な視点を受け止め、共同制作を可能にします。

女性ならではの感性や経験がAIと交わることで、新しい価値を生み、社会を豊かに変えていきます。**未来のクリエイティブは、もはや一部の人だけの特権ではありません。**

AIが支える世界で、女性たちは自由に表現し、リーダーシップを発揮し、次世代の可能性を切り拓いていける——私はそう信じています。



NewsPicks Studios
取締役 Executive Producer
木寄 綾奈

終わりに



本白書を通じて、女性による生成AI活用の現状と、その秘められた可能性が明らかになりました。

AIはキャリア形成を支える力にとどまらず、
日々の暮らしや人生のあらゆる場面に新たな選択肢をもたらす存在です。
だからこそ、距離を置くのではなく、AIを正しく理解し、主体的に活用する力を育むことが重要です。
Women AI Initiative Japan (WAIJ) は、産学官の連携を軸に、すべての人が安心してAIを学び、
味方につけられる環境を整えていきます。
そして、一人ひとりが自律的に人生を選び取り、多様な未来を描ける社会の実現を推進してまいります。



**Women AI
Initiative Japan**

VISION

すべての女性がAIで、その先へ。

MISSION

AI時代の働き方を再定義し、
自律的に人生を選択できる社会へ。

【女性AI人材白書に関するお問い合わせ】
一般社団法人Women AI Initiative Japan
info@women-ai-initiative.jp



**Women AI
Initiative Japan**

2025年9月発行

発行元：一般社団法人Women AI Initiative Japan

<http://women-ai-initiative.jp>